

# Weekly report

MINKABU  
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都千代田区神田神保町3-29-1

## 今週の注目材料 = 前回は弱めに出たISM製造業は？

2019年12月30日

年末年始、日本は基本的にお休みですが、海外では1月1日(元旦は世界的に祝日です)を除くと、基本的に通常営業となります。年始の休みが入る関係もあり、米雇用統計は第2週目の発表となりますが、3日夜にISM製造業景気指数(12月)が発表されます。

12月3日に発表された前回11月分は、48.3となった10月分から49.2に改善するとの予想に反して、前回よりも弱い48.1に留まりました。

4カ月連続で好悪判断の境目となる50を下回っており、米中通商摩擦問題などを受けて、米企業の景況感悪化が広がっている状況を意識させました。

米経済は、第1四半期GDPが前期比年率+3.1%とかなり好調となったものの、第2四半期は+2.0%、第3四半期は+2.1%という伸びにとどまり、数字的には決して悪いとは言えないものの、トランプ米大統領の目標である3%成長という水準にはやや物足りないという状況が続いています。

雇用市場が堅調な状況が続けるなか、個人消費は第2四半期が前期比年率+4.6%、第3四半期が+3.2%と好調を維持していますが、第2四半期、第3四半期とともにマイナスとなった設備投資が重石となっており、企業の景況感悪化が懸念される状況となっています。

こうした中で、設備投資とも関係の深い企業の景況感を示す前回のISM製造業景況感指数が弱めに出たことで、市場の警戒感を誘う場面が見られました。

前回の内訳を見てみると、新規受注が10月分から1.9ポイントも下げて47.2にとどまり、全体の数字と同様に4カ月連続での50割れ。雇用の数字も1.1ポイント下げた46.6と、こちらも4カ月連続での50割れという状況でした。

さらに、米中通商摩擦問題の長期化もあり、輸出が2.5ポイントも下げて47.9にとどまっており、こちらも警戒感につながりました。

また、その2日後12月5日に発表された11月分のISM非製造業景気指数も予想の54.5、10月分の54.7を下回る53.9となりました。業況指数が2010年以来の低水準である51.6まで低下しており、全体を押し下げた格好です。

製造業と違い、新規受注や雇用は強めに出っていますが、製造業が弱かったところに非製造業も冴えなかったことで、米企業全体に対する警戒感につながりました。

こうした状況を受けて、今回のISM製造業ですが、49.0と50には届かないものの、前回からの改善が見込まれています。

雇用や新規受注の数字も同様に回復を見せると、米企業業績に対する警戒感が後退し、ドル買いを誘いそうです。

なお、ISMに先駆けて31日夜(日本時間ではちょうど2020年になる1月1日午前0時)に、米調査会社コンファレンスボードの消費者信頼指数(12月)が発表されます。

前回まで4カ月連続で悪化している同指標ですが、今回は11月分の125.5よりも強い128.0が見込まれています。今回は全体の数字自体は弱かったとはいえ、将来の見通しを示す期待指数が10月分の94.5から97.9に大きく改善しました。今回の発表で全体の数字が

予想前後の好結果となり、期待指数も強めに出ると、ISMと合わせて米雇用統計(12月分は今週ではなく10日の発表)に対する期待感につながり、ドル買いを誘いそうです。

#### 山岡和雅 | minkabu PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

---

#### <免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

#### <著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。